報告事項４

さやか星小学校の開校後の状況について

県民文化部県民の学び支援課

概要

１	名　　称	さやか星小学校
		校長　青木　高光
２	位　　置	佐久市入澤１５２－１
３	設 置 者	学校法人西軽井沢学園
		理事長　奥田　健次
４	学則定員	198 人
５	開校年月日	令和６年４月１日

１　児童数の状況（５月１日時点）

（単位：人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	申請時計画	定員
R6									
うち新入生									
（応募者数）									
県外出身者									

・当初の計画より入学者が少なかった。
・開校以来、地域社会との連携を強化しながら、対面、オンラインを合わせて複数回の学校説明会や学校関係者向け学校公開日を開催。
・授業内容の様子が具体的にわかるよう授業風景の写真を添付してＳＮＳ等で定期的に情報発信している。
・来年度の入学者数は、想定より少ないが、全校児童人数はおよそ倍に増加する予定なので、今後も地域社会とのパートナーシップを深めながら、継続的な児童募集活動を行っていく。

２　教職員の状況（11 月末日時点）

（単位：人）

		校長	副校長	教諭	養護教諭	事務職員等	その他	合計
計画	計	1	1	5	1	1	1	10
	専任	1	1	5	1	1	0	9
	兼任	0	0	0	0	0	1	1
R6	計	1	1	4	1	1	1	9
	専任	1	0	4	1	0	0	6
	兼任	0	1	0	0	1	1	3
差	計	0	0	▲1	0	0	0	▲1
	専任	0	▲1	▲1	0	▲1	0	▲3
	兼任	0	1	0	0	1	0	2

・専任の教諭は１減となっているが、県教育委員会からの教諭の出向もあり、充足している。
・教職員の確保には苦労したが、現在は特別支援教育、ＩＣＴ活用、行動分析学など多様な専門性を持つ教員が働いており、安定した運営を行えている。
・これらの各自の専門分野を生かし、行動分析を用いた支援プログラムやＩＣＴを活用した授業が実践されており、チームとしての協働が進んでいる。
・今後の課題として、行動分析学の専門性を持つ新たな教職員の確保、既存の教職員のスキル向上

を目的とした外部講師や校内人材を活用した研修による継続教育、職員間での授業観察とフィードバックの文化を醸成し、現場での実践力を高める取り組みが求められていることが挙げられる。

3　教育の特徴等

・行動分析学に基づくインクルーシブ教育とICTを活用した個別最適化学習を軸にカリキュラムを実施。
・開校初期に比べ、特にデジタル教材の利用が増加し、学習の効率が向上している。
・児童一人ひとり能力に応じてよりきめ細やかな個別最適な学習を実現するため、専修学級を設置し、異学年で個別の教科学習等を実施。
・専修学級については個別学習がメインにはなるが、例えば、体育・音楽等の授業については、通常学級の児童と一緒に実施することや、成果に応じてシールを配布し、そのシールを用いてクラス全員で作品を作る等、みんなで協力する大切さも学んでいる。
・地域社会との連携により、多様な学習リソースの共有、地域イベントへの積極的な参加、地域の方々を招いた学校主催イベントの開催などを徐々に進めている。
・今後は、児童のフィードバックを基にカリキュラムの細部の調整が行われ、さらなる個別化された教育プログラムの開発が図られる予定。また、児童一人ひとりの将来設計を支援するために、進路指導体制の整備と具体的なプログラムの開発を進めている。また、地域の図書館やスポーツ施設といった公共施設との連携による教育の充実や県内の企業と協力した社会参加プロジェクトを実施し、教育の質の向上を目指していく予定。

4　収支決算